

番号	学校名	部活動名	学年	氏名	感想
1	県立長崎北高等学校	写真部	2年	川添 真桜子	今回、間近で長崎くんちの撮影ができて、とてもいい経験になりました。初めての龍踊りや川船などのだしものを生で見たので感動しました。「もってこい」の掛け声で会場の方々が一体になって盛り上がっていたので、よりくんちの臨場感を感じることができました。写真を撮るのも楽しかったです。演者さん達の表情やだしものの迫力に注目してみてもほしいです。自分の写真で多くの人にくんちの魅力を伝えたいです。
2	県立長崎北高等学校	写真部	2年	植園 鼓	今回、長崎くんちを初めて直で見ました。近年、少子高齢化が進んでいるということで、私は勝手ながら踊り手は大人の方が多いのだと思っていましたが、大人だけでなく多くの子ども達もくんちに参加していて、伝統が引き継がれていく姿を見ることができました。また、踊り手にアンコールを求める「もってこい」というかけ声によって老若男女関係なく、会場が一体となって盛り上がりました。踊り手が舞台を離れるたびに何度も「もってこい」と叫び、それに応え、体力の限界を迎えてもなお、舞う姿は踊り手としてのプライドとくんちを盛り上げるという気概を感じました。
3	県立長崎北高等学校	写真部	2年	永田 蒼空	今回、私は長崎くんちを初めて近くで見ることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。迫力のある川船や龍踊りに心を奪われ、写真を撮ることを忘れてしまうぐらいでした。くんちを盛り上げる演者さんと、それを見る客が一体となって盛り上げているのが伝わってきました。だからこそ長崎くんちは伝統になり、ずっと続いているのだと感じました。この伝統は次の世代にも伝えていきたいし、日本だけでなく海外においてもこの長崎くんちの魅力を写真や動画を通して伝えたいと思いました。
4	県立長崎北高等学校	写真部	2年	木下 優紀菜	長崎くんちの撮影に参加して、始まる前からお客さまのワクワクした表情が見え、長崎くんちがお客さまからとても愛されていることが伝わってきました。そんな愛されている長崎くんちを写真に収めることができて、とても光栄でした。また、写真を通して長崎くんちを好きな人にも知らない人にも、長崎くんちの良さを広められたらいいなと思いまし
5	県立長崎北高等学校	写真部	2年	丸山 怜花	去年に引き続き、今年も長崎くんちを見ることができました。私と同じぐらいの年齢の人も長崎くんちに参加していて、親世代から子世代へ受け継がれているのだなと思いながら見ていました。今回は前回と違う場所から出し物を見ることができました。私自身も保育園児の頃龍踊りをしていたこともあって、龍踊りや阿蘭陀万歳はとても懐かしく見ることができました。今回私が一番心に残ったものは、西古川町の櫓太鼓・本踊です。初めて見たものもありますが、棒を振り回しながら体を逸らして速く回している姿を見てすごいなと思いました。これから進路によっては長崎くんちを見ることができなくなるかもしれませんが、長崎に帰ってきた時は是非見たいなと強く思いました。
6	県立長崎工業高校	放送部	1年	田口 花音	久しぶりにおくんちに行きましたが、踊りなど演し物をこんなに間近で見たのは初めてでした。大人から子どもまですごく頑張って練習してきたことがよく伝わりました。長崎の伝統行事ですが、外国の方も出でおられ国際的だと感じました。今回の招待で撮影を一番前の席でさせていただきましたが、テレビで見るより迫力があり、笛や太鼓などの演奏者、踊ったり神輿を担いだりしている人、盛り上がっている観客など、それぞれの熱量が素晴らしくて感動しました。1年生なので「動いているものを撮る」ことをあまりしておらず、撮影のポイントや今後の反省点に気づくなど、いろいろなことが発見できました。良い経験をさせていただき感謝しています。
7	県立長崎工業高校	放送部	1年	蒲原 千鶴	初めておくんちの取材をしてみて、どうやったらあの迫力のある一つ一つの動作を画面越しで伝えることができるか考えながら撮りました。演し物の解説を参考にしながら、動きに合った画角調整をしてみました。編集のために確認してみると、対象物の一部が画角から切れてたり、自分が想像していたようなスムーズなカメラ移動ができていなくて、動くものを撮影する難しさがよく分かりました。取材としてすごく良い体験をすることができました。この経験を次に活かせるように頑張ります。ご招待いただきありがとうございます
8	県立長崎工業高校	放送部	1年	井口 綾菜	私は長崎くんちをテレビでしか見たことがありませんでしたが、今回の取材を通して、初めて実際に目の前で演し物を見ることができ、とても良い機会となりました。「新橋町の動きの揃った本踊や阿蘭陀万歳」、「諏訪町のしなやかで美しい龍踊」、「新大工町の気合の伝わる曳壇尻」、「櫻津町の迫力満点の川船」、「西古川町のリズムカルな櫓太鼓」、「賑町の福を運んでくるような大漁万祝恵美須船」など、各踊町の演し物や傘鉾にそれぞれの特徴や良さがあり、また演者の方たちの努力や熱意がすごく伝わってきました。来年もぜひ参加したいと思いました。このような機会をいただいたこと、ありがとうございました。
9	県立長崎西高等学校	写真部	2年	松下 敏修	おくんち広場の最前列で迫力のあるパフォーマンスを楽しめました。自分の写真が長崎の伝統に触れる楽しさを知るきっかけとなってほしいと思い、撮影しました。せっかくの、間近で撮影できる機会なのでなるべく大きく被写体を写して、迫力が伝わりやすいように心がけました。
10	県立長崎西高等学校	写真部	2年	ディラン・ライス	I thought the whole experience was very fun. I had never been to the festival before, so I didn't know what to expect. All the displays with the dancers, the floats, and puppets were so cool. There was no shortage of photo opportunities. What impressed me the most were the dragons. Their movement was so fluid, and the photos I took of them showcasing their movement were my favorite. (初めて参加したお祭りだったので、どんな雰囲気なのか分からなかったのですが、とても楽しい体験でした。本踊や曳壇尻、阿蘭陀万歳の演目はどれも本当に素晴らしく、写真を撮る機会がたくさんありました。中でも特に印象的だったのは龍踊です。動きがとても滑らかで、その躍動感を捉えた写真が一番のお気に入りになりました。)
11	県立長崎西高等学校	写真部	2年	関 柚香	今回初めておくんちを間近で見れる貴重な体験をさせてもらえてとても感動しました。テレビで見るよりも迫力があって。今まで受け継がれてきたことを感じる事ができました。華やかな雰囲気なので写真をとるのがとても楽しかったです。普段撮ることができないものを撮影できました。またぜひ、このような機会があったら参加したいなと思いまし
12	県立長崎西高等学校	写真部	2年	田中 美玖	長崎の伝統行事である「長崎くんち」の迫力や臨む人々の想い、楽しんでいる観客の皆さんの気持ちを、写真を通して伝えたいという思いで撮影をしました。一瞬一瞬の熱狂や感動を収められるようにずっとカメラを待ち構えて撮影することを意識しました。
13	県立長崎西高等学校	写真部	2年	宮崎 結愛	おくんちで踊り町をあんなに間近で見たのは初めてで、長崎の伝統を受け継ぐ人がこんなにもいるのだと感じ、その迫力や熱気が伝わればいいなと思って撮影しました。
14	県立長崎西高等学校	写真部	2年	安藝 万由香	長崎に住んでいながらも、これほど近くで演技を見させていただくのは初めてで、長崎くんちが長い歴史の中で受け継がれてきた伝統であり、現代でも人の心を動かす力があることを強く感じました。カメラを通して演者の表情や動きの美しさを収めることができ、写真を通して長崎の伝統文化をこれからも残していきたいという気持ちがより一層強くなりました。
15	私立海星高等学校	放送部	2年	岩村 有紗	去年に引き続き貴重な機会をいただくことができてとても楽しかったです。今まで様々な踊町の演目を近くで見るという機会が自分自身にとってあまりなかったので、新しい体験をさせていただいたと感じています。実際に間近で見ると、太鼓の音や掛け声、観客の熱気など、その場の空気の迫力を強く感じました。その雰囲気が少しでも映像から伝わるように意識しながら撮影しました。私たちが制作した短い映像を通して、去年とはまた視点の変わった新たな魅力を感じていただけたら嬉しいです。
16	私立海星高等学校	放送部	2年	宮崎 喜隆	2度目のくんちの取材となり、今回は先輩として後輩にカメラの使い方を教えながらの撮影で大変でした。しかし、自分自身も思っているように撮れなかったりと反省することがたくさんあり、修正しながらの撮影となりました。最終的には一つの動画としてまとめることができてよかったですと思います。編集作業では、去年撮影したものと比べると、「使える素材」に限りがあり(狙って撮ったもの)、使用素材の選考に時間を要しましたが、踊町の名前と傘鉾を同時に出したり、ただ画を並べるのではなく、違和感がないようにスムーズに繋げるとい、自分が本来やりたかった編集を行うことができました。また、各踊町の魅力が伝わり、映像を見た人が「実際の演目をもう一度見てみたい」と思ってもらえるような作品になることを意識しました。もし来年も取材の機会があれば、後輩たちにさらに良い動画を作ってほしいと思います。
17	私立海星高等学校	放送部	1年	松尾 和音	今回のおくんちを取材して、改めて「伝統芸能」を間近で見ることで、その魅力がよく分かりました。踊り町ごとに衣装や動き、雰囲気が違って、カメラを通して見ることで「こんなところまで工夫されているんだ」と気づくことも多くありました。初めての取材で戸惑うこともありましたが、長崎の伝統行事の魅力を自分なりに映像に残すことができたことを嬉しく思っています。映像を通して、おくんちの素晴らしさが伝わっていたら嬉しいです。